

◆◆◆ いわきやについて ◆◆◆

なぜ横浜なのに "いわきや" なのか?

いわきやの創業者、我妻かのが福島県「いわきの國」出身なので、"いわきや"となりました。初代の"我妻かの"は、現在の我妻栄社長の曾祖母に当たる方です。創業者が女性のいわきやは、代々女性が強い家系なのです。

いわきやの始まり

軍服工場の女工さんに着物を売るようになったのが始まりです。

昔は現在改装中のイオン天王町店からコーナンまで軍服の工場がありました。そこでは何千人の女工さんが働いており、現在の横浜本店の2階を休憩室にしていました。「お茶だけ飲むのは悪いから」という彼女達に、着物を売るようになったのが、いわきやの始まりです。そこから、着物を売るだけではなく、お客様にお茶出しして、楽しい気持ちになって帰ってもらうといいわきやのコンセプトが出来ました。

いわきやと戦争

創業122年のいわきやは、幾度となく危機に見舞われました。第二次世界大戦では、3回店が焼けてしまったそうです。戦後は、国が認めた「配給店」に選ばれ、市民の生活を支えました。

◆◆◆ 女将のコーナー ◆◆◆

～先代社長の話～

海外旅行が好きな方でした。ヴェネチアングラスが好きで、よく飾ってありました。3.11の震災で、ほとんど割れてしましました。

義父には、私は本当の娘であるかのように可愛がってもらいましたね。普段は優しいのですが、時には瞬間湯沸かし器のように激しいところもある方でした。そんな義父のもとで仕事も生活も共にしたことで色々鍛えられて、今の私が作られました。

今の私の決断力は、義父のおかげなのです。私は元々、物事が決められない性格だったので。本當ですよ。



戦後、横浜には2,800店程の呉服屋がありましたが今では随分少なくなってしまいました。いわきやは、その中で一番長く続いている呉服店です。

今後とも、いわきやは地域に愛され、200年企業を目指して参ります。



◆◆◆ 社長のコーナー ◆◆◆

～先代社長の話～

落語が好きな方でした。着物を着て、タバコを懷に入れて、人形町の末廣亭などによく出掛けっていました。着物の着方はプロが見ても惚れ惚れするほど粋なもので、必殺仕事人の藤田まことみたいでしたね。

地域に対しても熱心な方でした。保土ヶ谷法人会長を10年勤め、税務署に貢献したことで、勲四等双光旭日章など多くの勲章をいただきました。保土ヶ谷商店連合会長もつとめていましたね。人望に厚く、79歳の葬式の際は多くの方がご会葬くださいました。

